

CONTENTS

- 公認会計士、衆議院議員のご紹介
- 活動報告
 - 浅尾慶一郎を囲む公認会計士の会 通常総会
 - 参議院議員 おだち源幸君を励ます会
 - 福芳会 朝食会セミナー
 - 健政会 朝食会セミナー



これからの活躍に期待! 公認会計士、衆議院議員のご紹介

昨年12月に行われた第46回衆議院議員選挙において、4人の公認会計士・会計士補の国会議員が誕生しました。会計・監査を取り巻く制度改革において強力なパートナーとなっていただく方々です。今回より2回連載で木下幹事長によるインタビューでご紹介します。

新しく生まれ変わる気概で

鷲尾英一郎 衆議院議員 (民主党)

木下 あらためましてご当選おめでとうございます。

鷲尾 ありがとうございます。公認会計士協会の皆様に全力で応援をいただいたことにまず感謝申し上げます。

公認会計士出身の議員として活動する中で、与党としてできたこともあります。たとえば未就職者問題は、抜本的には法律の問題も必要でしたが、省庁とタッグを組んで合格

者数を減らしていきました。IFRSはアメリカの対応で若干下火にはなりましたが、東京サテライトオフィスの開設などには積極的に関わってきました。

木下 選挙前は農林水産大臣政務官として政府に入られていたわけですが、政府の中にいると感覚は違いますか。

鷲尾 意思決定にかかわるという意味でも良い経験になりました。農林水産省も2

万人以上の大きな組織ですから、そういった組織の意思決定機関の一角を担うという責任もありますし、内閣の一員という立場がどういふものかを知ることができました。

木下 鷲尾議員が政務官になられた後にお会いしたとき、存在感が大きくなったと感じました。政治の運営、政策の遂行に責任を感じていらっしゃるのだなと思いましたよ。

鷲尾 もう少し長くやっているとちょっと違っていたと思いますが、それは仕方ないです。

木下 今回、残念ながら民主党が敗退となりましたが、与党と野党の立場はかなり違いますか？

鷲尾 法律をつくるにあたって、その権限た

るや大きな違いがあります。実際に皆様方の意見をいかに吸収しようとも、野党は実際の決定権限がないのです。国家を動かしているという責任があるのとないのでは全然違うんですよ。正直言って随分気持ちが楽になりました。政権を運営することに対して私は随分重圧を感じていたんだと野党に戻って思いました。

木下 鷲尾議員に尽力していただき、税理士法の改正問題は今国会では取り上げられませんでした。ただ継続検討となり、結局、我々の将来的な姿としては、公認会計士の資格で税務業務ができるように公認会計士法の改正を目指さなくてはならないという

気がしています。その辺はどうお考えですか？

鷲尾 議論の方向性として実体経済に合うかたちで改正をしていくべきですよ。公認会計士・税理士の方々が能力担保措置を講じなければならない状況かと言うと、そんな話はまったくないわけです。幹事長がおっしゃるように公認会計士たる資格で税務を行うというのは、諸外国の流れですし、国によって違いますから一概に比較できませんが、少なくとも資本制度の発祥の地である欧米のスタンダードからすると、日本は特殊ですよ。私は継続的研修制度も含めて規制をきめ細かくしていただければ、公認会計士たる資格で税務業務もするというで何の問題もないと思います。

木下 鷲尾議員にはこれからも私たちの声

を発信していただきたいと思っています。今後、民主党のなかで重要な役割を担っていかれると思いますが、民主党の方向性をお話いただけますか。

鷲尾 そこがもっとも重要なところで。今、党の再生委員会で党の綱領も検討しています。我々が負けた原因は、単に小異を捨てて大同につくことを繰り返してしまったこと、党の運営もおぼつかず政策自体が非現実的になってしまっていたこと、こういったことを受け止めた上でどうしていくのかと、それは相当難しい議論になっていくと思います。いろいろなものを整理する過程で痛みを伴うと思いますが、私としては新たに生まれ変わるぐらいでなければ民主党の再生はないという気持ちで取組んでいます。

今は円安が株高につながっていますが、成長気流に乗っているかという足下は何も変わっていません。ただ前向きな気持ちは重要ですから、今までとは違う新しい建設的

なことをやる必要があります。従来通りの公共投資中心のやり方には、私は疑問を持っています。

木下 鷲尾議員だったら何をされますか。

鷲尾 新たな国家ビジョンが、どうしても必要だと思うんですよ。たとえば、日本には日本人が気づいていない潜在的な資産が莫大にあります。安全だとか衛生的、食べ物がおいしいといった日本人には当たり前のサービスが、他の国からすると王侯貴族のような生活レベルだったりするわけです。こうした潜在能力をもっと出していけば、私の中で日本はもっとも安全で豊かな国になりうと思っています。そういうビジョンを私が総理だったら打ち出して行きます(笑)。

木下 いいですね。ではまず経産大臣になっていただいて(笑)。

鷲尾 私まだ3期生ですから、あと20年くらいして(笑)。日本が世界の桃源郷になる!ってどうですか。



1977年新潟県生まれ。東京大学経済学部卒業、平成13年-17年新日本監査法人。平成17年、第44回衆議院総選挙にて初当選、現在3期目。農林水産委員会委員、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会理事、党国会対策副委員長、国際局副局長。趣味は読書。

財政責任法で公会計制度改革を

桜内文城 衆議院議員 (日本維新の会)

木下 桜内議員は参議院から衆議院、そして党も日本維新の会から立られて見事当選されました。そもそも衆議院に鞍替えされたのは、どういう思いがあったのでしょうか？

桜内 地元新聞には志高く「いずれ総理を目指す。そのためには衆議院だろう」と言っています(笑)。衆参の違いで言うと、予算先議権と議決優先権が衆議院にありますので、やはり予算の関係です。それから維新の

会は石原代表なので、公会計制度改革に積極的だということです。

木下 日本維新の会は公会計に本気だということですね。

桜内 党政策調査会の中に公会計のプロジェクトチームをつくって、僕が座長をやることになりました。これまで、「財政責任法」という形で財政運営の目的と検証を兼ねた、かつそのベースとなる会計情報として公会

計制度の改革をやっていきましょうという法案をつくってきていますので、これを与党にも働きかけて超党派で法案を成立させたいと考えています。役所は法律がないと動けないんです。だから法律上、会計情報の作成を義務づける。監査も法律上義務づけることをやらないと自治体も国も動きません。だから僕は、法律をつくる国会議員の仕事にあえて踏み込んでいます。

木下 その公会計の制度は国の財政に対するものですか。地方公共団体も含めているのでしょうか。

桜内 将来的には両方ですが、まず国をやって、次のステップで自治体の法案を出して



1965年愛媛県生まれ。東京大学法学部卒業、大蔵省入省。内閣府・経済財政諮問会議専門委員等。会計士補(公認会計士第2次試験合格者)。2010年、参議院議員(1期)、現在、衆議院議員。著書に第34回日本公認会計士協会学術賞受賞作『公会計 国家の意思決定とガバナンス』(NTT出版)など。

いきます。
木下 実務部隊として我々の一番の懸念は会計基準がきちんとできていない、基準をつくる設定主体が確立されていないということです。

桜内 そうですね。設定主体をどこに置くかということ、基準の内容ですね。現在、財務省が国の財務書類を作成していて、その基準は財務省の中の財政制度等審議会に作成基準の設定権限が与えられています。でもこれは自己監査にあたるような話で、自分たちに都合の良い基準になってしまっているんです。だから第三者的な主体を作らなくてはいけない。そこで先に言いました財政責任法の法案では、基準設定主体には中立的なものを置きましょうという文言も入れています。

基準自体については「なぜ公会計制度があるのか」という本質を考える必要があります。企業会計は決算情報を作成することに重点が置かれますが、公会計は資源配分のコントロールが目的です。法案では「予定財

務諸表」と言っていますが、政府案をすべて施行したとすればバランスシートはこうなります、別の予算編成をしたとすればこうなります、といったシミュレーションが必要なんです。その財務諸表が社会全体に対してどういうインパクトを与えていくのかということを見ていくのが公会計のあるべき姿なんですよ。これがなかなか公認会計士の方に理解していただけない。

木下 しかし予算を執行した後、それが良かったのかどうか議論があつてしかるべきですよ。

桜内 おっしゃる通りです。結果としては財務諸表の開示は必要です。国民から預かった税金の使い道をちゃんと開示するのは当たり前前のことですが、それは役人に見れば面倒くさいとなる。だから法律でやれと言わない限りだめなんです。

これは提案ですが、公会計基準機構設置準備のプロジェクトチームを、協会が主導して作れませんか？ 政治家や財務省、会計検査院からも人を出してもらって進めていく

のはどうでしょう。いろいろな立場の方が話し合える場の設定を、中立的な立場の協会にぜひお願いしたいです。協会に事務局をやっていただくとか。

木下 なるほど、方向は良いと思いますので協会でも考えてみます。最後に、今の政府与党に対しての意見をお聞かせいただけますか？

桜内 補正予算について役所から説明を聞いて思ったのは、自民党の先祖帰りというか、役所に丸投げですよ。補正予算15ヶ月予算と言っていますが、公共事業の予算がついているものが13兆円あるんです。でも実際に予算をどこに使うかという箇所付けがされていなくて、とにかく国会を通して考えますと言っています。それじゃ、国会による財政のコントロールが効きようがない。予算を成立させて、最後の使い道は役人任せに



なっています。

木下 それはおかしいですね。私どもも公会計は重点施策と位置づけて頑張ろうと思っておりますので、ぜひ協力してやっていきましょう。

桜内 公会計制度改革をきちんとやって、アカウントビリティの具体的内容はきちんと主権者である国民に説明していきたいと思っております。

活動報告

「浅尾慶一郎を囲む公認会計士の会 通常総会」開催される

平成25年2月7日

横浜市の崎陽軒本店において76名の公認会計士が出席し、「浅尾慶一郎を囲む公認会計士の会」第2回通常総会を開催。1年間における会務報告と役員改選の提案があり、原案どおり承認された。

この後、浅尾議員から挨拶・国政報告が行われたが、その中で公認会計士に対する期待として、次のように述べられた。「経済成長を行う上で、企業が困らない政策をとることは重要であ



る。監査を通じた公認会計士の立場から、例えば、企業活動において現在の金利は適切か、財務会計に比べて厳しい税務会計の減価償却率等が日本企業の成長を遅らせていないか、また、国の安全保障でも日本の根幹を成すのは経済力であるが、経済を強くする方法は何かなど積極的に提案することを要望したい。

…「浅尾慶一郎を囲む公認会計士の会」新役員…

会長 / 波多 康治 | 世話人 / 久保田 博 (事務局長) 七松 優 石黒 徹哉 高品 彰
副会長 / 浅井 万富 | 顧問 / 増田 宏一 清水 要吉 矢野 豊 黒田 克司

「参議院議員 おだち源幸君を励ます会」開催される

平成25年2月20日

2月20日、新宿区市谷のホテルグランドヒル市ヶ谷において、「参議院議員 おだち源幸君を励ます会」が開催された。尾立議員は、民主党所属の公認会計士議員(大阪府選出、当選2回)で、財務大臣政務官を歴任している。当日は、海江田万里民主党代表も激励に駆けつける中、当政治連盟からも山崎会長ほか多くの役員が出席した。

挨拶の中で尾立議員は、今後の政治活動として、①国の税金の無駄遣い防止、②国の財務諸表作成についての法定化、③日ロ平和条約の締結、を挙げられた。



特に、尾立議員が現在、日ロ協会の理事長に就任しているロシアとの関係改善について、領土問題と経済問題で困難な状況にあるが、解決のため一生懸命取り組んでいきたいとの決意を述べられた。



「福芳会 朝食会セミナー」開催される

平成25年2月28日

吉野正芳議員の東京後援会「福芳会」によるセミナーが自民党本部で開催された。吉野議員は早稲田大学商学部日下部ゼミ(会計学)のご出身で、同ゼミOBには公認会計士も多く古くより自民党の窓口になっていただいている(現在 自民党公認会計士制度振興議連 事務局長)。この日は100名程が集まり、地元福島からも多くの方が参加されていた。

衆議院環境委員会の委員長でもある吉野議員の福島復興への思いは熱く、原



発現場の整地には日本の技術を集中し、40年以上かかるところを20年ほどで終わらせたいと述べられた。

かのケネディー大統領は、全く技術的根拠がないにもかかわらず「10年間で人類を月に!」というスローガンを立て、見事にアポロ計画を実行したそうである。

全米の技術とお金を注いでイノベーションを起こし、それがコンピュータ産業となって米国経済を支える機関産業に育ったことを引用され、「福島においても必ずイノベーションは起こる。これを『フェニックス計画』と名付け実行したい」と力強く語られた。

「健政会 朝食会セミナー」開催される

平成25年2月28日

自民党本部において、若林健太議員東京後援会による「健政会 朝食会セミナー」が開催された。政治連盟の役員・青年部メンバー及び「公認会計士による若林けんた後援会」の役員等、合



せて19名が出席した。若林議員は現在、安部内閣のもとで外務大臣政務官として活躍される公認会計士出身の参議院議員である。

セミナーでは外務大臣政務官としての活動報告のほか、安部内閣が目指す金融・財政政策や国会対応についての説明が行われた。特に日米首脳



会談でのTPP協議とその後の対応については日本が避けられない問題として認識し、今後国内での幅広い議論を通じて、しっかりと取り組んでいきたいとの抱負を述べられた。

その後、内閣官房副長官の世耕弘成参議院議員より「安部内閣は、閣僚や官邸の人選に十分配慮されており、過去の経験もふまえて着実な政策実行に取り組んでいる」旨報告があった。